キズナの深まり

第六次ネパール教育支援の旅

ネパール・ミカの会会長

齋藤謹也 (第六次教育支援の旅団長)

何回訪問しても、あきるという事がないネパールの

ルンビニを中心とする支援の広がり、高まり。ライフワークとなろうとしているネパール。釈迦生誕の地旅。こんなにキズナが深まり、益々私達にとって、大事な

であることを実感するのが、ミカの会の旅行です。がりをみせ、深まりをみせて展開している私共の教育支援な支援という一石が投ぜられたことであるが、年々年々広キッカケは、雨漏り校舎との出会いによって、ささやか

ンの 校舎 L١ 今回は十名で行ってきました。 の っ 旅 巡 た代表的観光地に立ち寄る事をカットした事。 の大きな違い [書寄贈 カ所で行う事。 を全てトリヴァン大学タンセン校(文系)の は ルンビニは極力建設完成校落成式参 チトワン国立自然公園とかポカラと ι١ ままでの支援の旅と今回 タンセ

こと。こんな旅の内容を大谷事務局長を中心として、「余加を主として行い、来年度候補校視察は最小限にとどめる

特に今回の旅のメインは、カトマンドゥからバイアラ空裕」をテーマに立案してもらい、旅立ちました。

する東ネパールから西ネパールの大山脈、世界の屋根を眺り、マウンテンフライトをかねて、エヴェレストを頂点と港間の二十名乗り、ブッダエアーラインの飛行機を借り切

めるという計画でした。

これは、大晴天のもと、すそ野までみえるという記憶にの

こるフライトになりました。

ライトとなりました。(来年度は実現できるかどうかわか若干の個人負担という事をおぎなって余りある喜びのハイの会一行貸し切りという一大イベントの成功につながり、たまたま、観光客の減少という現状の厳しさが、逆にミカ

りませんが)

待)。今村旭写真展見学、教授達による夕食会御招待などァン大学タンセン校学長先生のご長男結婚式出席(ご招ズでしたが、タンセンはモホン女子校との交流や、トリヴズに余裕をもって図書寄贈場所を一カ所という日程の八

影会は全くできず、塩も買えずじまいでした。があり、カケ足カケ足で、いつもの塩屋の娘の店前での撮

教育環境整備の期待の高まりが感ぜられます。参集など、とても形式的なものでなく、キズナの深まり、おける村長、理事長、学校長以下、村民達の期待にみちた援校でも、私達を待っている顔々々。新年度支援予定校に又、ルンビニでの支援活動も落成式参加はもとより、既支

をお ſΪ 思って帰ってきました。 様々な事柄、 思えました。 身と密接につながったものと、 の 読 やる気をもらって、 協力といっ み頂き、 またー 出会い 是非、 たものではなく、 から、 年ネパールの子ども達の瞳から、 明年はあなたも一緒に行って下さ 根気よく活動を続けていけるなと 団員一人一人の報告紀行文夢の記 日々の生活とは異なった異文化 ますますなっているように 非日常であっても私達自 元

ています。でいますので、それを更に発展させられればと考えむ全市的活動に発展していると共に、市民個々との交流もタンセン市は、既に郡長、市長、大学や全学校関係を含

国内でもネパールでも展開したいと思います。る現状をもっと支援して下さる方々に分かりやすいようにぼっていますが、会員の皆様のお知恵をおかし下さい。ぼっていますが、会員の皆様のお知恵をおかし下さい。でして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をそして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をでして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をでして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をでして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をでして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をでして、本年を一つの契機として、また内容豊に、事業をは、対象を関係の対象を表す。



ネパール私の心をとらえて離さないもの

和田

泰子

カトマンドゥ

排気ガスとほこりと喧騒のなかを行き交う人々。

今日のファストビジネスだよ、と言ってどこまでもどこ

までもついてくるも物売りの子供たち。

生と死がしごく当たり前に日常に溶け込んでいる街ま

ち。

数百年の年月を経た精巧な木彫りの飾り窓。

人々の祈りを天空からじっと見下ろしている、 慈愛に

満ちた大きな目玉。

長い歴史をレンガ色の壁に塗りこめて建っている古い

王宮、寺院。

夕暮れと共にともるオレンジ色の家々のあかり。

タンセン

山の斜面にはりつくように建つ家々、遠くヒマラヤを

見わたせる頂に建つ大学。

向こうの山から二時間も歩いて大学に通ってくる青年、

未知なるものにあこがれる青年のキラキラした瞳。

ふるさとに帰ってきたような気持ちにさせてくれる、

小さな商店街そして人々。

親愛の思いをこめて手折ってくれた深紅のラリグラス。

果てるともなく続く、子どもたちの元気な歌声。

子どもたちの瞳にも似た、濃紺の空にかがやく星ぼし。

ルンビニ

遠来の客を好奇心と期待をこめてじっと見つめる漆黒

のひとみ。

手渡された小さな鉛筆を大切に握りしめる小さな手。

土かべの家と同じ色をした、 ほこりまみれの素足。

はにかみながら差し出す小さな手に握られた花ばな。

目と目があうと、はじけるように返ってくる何物にも

かえがたい笑顔。

遠くから「ここだよ。」と存在を誇示している、建っ

たばかりの真っ白い校舎。

緑の地平線に心のこりに沈んで行く、だいだい色の大

きな太陽。

第六次教育支援の旅

浜崎 ヤスエ

した。

ネパールは楽しかったです。 回を重ねる度に面白くなっ

てきます。

校の数は と呼んでいます。 落が学校支援エリアです。 かったです。 ストから西はダウラギリまで東西ー フライトは最高でした。 七泊八日の旅でした。 入ると懐かしい風景が広がってきます。 今回は十人のメンバー で天気にも恵まれ充実した日程の 青い空に白い雪に輝く山々の眺めは壮大で素晴らし 八校になるそうです。 バイワラからバスに乗り換えルンビニ街道に 今年は二校舎の落成式がありました。 特ににチャーター 機でのマウンテン 世界の尾根ヒマラヤ山脈をエベレ 会の人たちはこの道を町田 時間余りを飛びまし この街道沿いの集 街道 学

す。今回は一日一校のスケジュールとなっていて楽でしすが、関係者のスピーチがながくて結構時間がかかりま落成式は生徒達を中心に大勢の人たちが集まって行われま

ドや色とりどりの花のレイを手に私たちをむかえてくれま

ルンビニにはもう一つの楽しみがあります。

どの学校でもたくさんの子どもたちが、

マリーゴール

ことだったと思いました。
法華ホテルに泊まる事です。和食に大浴場、タタミにふとん、場所も建物もすばらしくてルンビニの楽園です。
ととした。去年一校ごとの式典に参加して時間と労力の限界をした。去年一校ごとの式典に参加して時間と労力の限界をした。

ルコッ り快適でした。 すます身近に感じられるようになりました。 時間近く山坂を歩いたのも心に残る事です。 の結婚式に招待され出席したことです。 スで得難い経験をしました。 最後の訪問校、 ハプニングがありました。 <u>-</u> 番のホテルといわれるクラブヒマラヤンに泊 ジャンモさんも合流して泊まりまし カトマンドゥのパドマカニヤ女子校の生 花婿さんの車の後について二 トリヴァン大学学長のご子息 またとないチャン 五泊目はナガ タンセンがま ま

た方々、メンバーの方に感謝します。て私たちにかえってきます。ラマさんとお世話して下さっと思います。この人たちの喜びのひびきは、何倍にもなっに逢いに行って下さい。ルンビニの村や校舎も見て欲しいた。まだ、現地に行かれていない方は、是非一度子供たち

徒たちとの交流は、唄って、踊って実に楽しい時間でし

ネパー ルの雑感

中野 千恵子

最初、税関の方に並んでしまったためと、ビザ申請の方三年ぶりのネパールは、ビザ申請から始まった。

大勢い

たので、

かなり遅れて外に出た。

ラマさんと

が伴がってこない。翌日、国内更の空巷こぎらが、空巷丘でいる。そして、規制もしているのか、ネパールの子供達は王暗殺、たびたびの暴動の為か観光客が少なく閑散としも両手で手を振る。二人とも元気そう。ひと安心。空港内ジャンモさんを捜す。真正面で二人が手を振っている。私

ときも整然と並んでいる学校が多く、

手渡しやすかった。

る兵隊がいたり、あちらこちらに兵隊が目につく。私達のくの基地では土のうが積んであり、その中に銃を持っていが群がってこない。翌日、国内便の空港にきたが、空港近

ェック。警備が厳しい。役人が来るとの事からだそうだ。り入ったりしている。四日夜のバイワラ空港でも荷物をチた。空港入り口で検問。空港の待合室では、警察官が出たバスも少し離れた駐車場から、荷物を持って空港まで歩い

反取り締まりの姿が多く見られた。 街中では、 人づつだったが、 まったのは、 そして車が行き交う交差点の中で全然動かない馬。これ 軍隊の人はいたが、 馬に乗った交通整理の警察官、 姿勢も良く、 ビシッときまってい 街角では、 その中で一段と目にと 警察官が 男 性、 女性一 駐車 違

きちんと並ぶようになったと思った。エンピツなどを渡すはルンビニの子供達。先生の指導が行き届いているのか、ないので三年前とあまり変わらない。変わったと思ったの兵隊、警官の姿はカトマンドゥから離れると殆ど見られには驚いた。剥製かと疑ってしまう程だ。



ウンテンフライト。 さと同じに見られた事。山々の位置関係も良くわかった。 だとつくづく感じる。今回の旅で、とても良かったのがマ 事が身に付いて欲しいと思った。やはり教育は本当に必要 タンセン、カトマンドゥの子ども達のように、基本的な アンナプルナ、マチャプチャレ、ダウラギリが目の高 以前、エベレスト、マナスルは見た

時間半かけての行列に参加。ビスタリビスタリと楽団の後 ろについて歩いて行くのだ。楽団はトランペットの人に合 婚式の招待。学長の家から花嫁さんの家まで2kmの道を一 わせ、ブンチャカブンチャカと音を出す。 そして、タンセンのトリヴァン大学の学長のご子息の

るのだろう。人家の前では皆道に並び、見学、楽しみの一 つなのだと思う。 人が終わると一緒に終わるのだからやはり曲を演奏してい メロディはあまり感じられない。でも、トランペットの

はいっるという神奈川の男性等。 た女性、 ノリダー もいるとの事。 んねるずの木梨憲武さんにそっくりの御主人がいた。 琲店」と日本語で書いてあるのだ。店の中に入ったら、と ホテルを浜崎さんと見に言った時の事。 もう一つ楽しかった事。ナガルコットで、以前宿泊した 山梨から来た男性、 店の中には、 少し遅れて入って来て八ヶ月 日本の武蔵境から来 道の途中「憲武 チビ

ら、メールをしてみようと思っている。を飲みながら、楽しい一時を過ごした。五月位になった写真を撮りあったり、メールを聞いたりおいしいチャイ



元気のもとはネパール

大石 トキ

ましたので「まだ行けそう」と希望がわきました かな?と思い したことを、 ミカの会の皆々様のお陰で今年もネパール訪問ができま ましたが帰りましてもすぐ自分の生活に戻れ 先ずお礼申し上げます。 少し急ぎ足でハード

気遣って下さったお陰です。 ネパールとのかかわりを振り返ってみますと、七十二歳 ランタン渓谷のトレッキングで 本当に感謝しております。

何よりの収穫です。

これも高齢の私を皆さんがやさしく

で初めての海外旅行が、

した。 二度目はヒマラヤの麓ツクチェの学校を家族で訪ね、大 今は亡き息子、 一馬が連れて行ってくれたのです。

石一 目が娘、 の会・第二次教育支援の旅に参加させていただき、 馬ネパール奨学基金を設立しました。三度目はミカ 孫との三代でのツクチェ訪問、 そして五度目は 四度

昨年、

娘

孫、

二歳のひ孫、

四代での訪問で、

むこうで

今回のミカの会での旅は久しぶりでした。

ヒンドゥ式の八十四歳のお祝いをしていただきました。

天候にも恵まれマウンテンフライトは最高でした。 白

停止してくれたよう)心ゆくまで眺められ感激しました。

く輝く神々の座を今回は特にゆっくり(まるで飛行機が

タンセンからバイラワに向かう途中でしたか、 擦り切

ているのか道端に立っていました。 れ、汚れた服をまとった女の子と男の子がやぎの番でもし ちょっとバスを止めて

いただき、日本からトランクに詰められるだけ詰めてい

った古着の中から女の子にはピンクのカーディガン、 男

いっぱいのまなざしで見つめていた男の子も、 の子に紺のジャージを着せてあげました。 初めは警戒心 お別れの

時にはニッコリ手を振ってくれました。 こんなささやか

なふれあいも本当にうれしく心に残りました

次々と忙しく訪問した数々の学校でも子どもたちが できる喜びを瞳の輝きで伝えてくれ「ああ、 来てよかっ 勉強

た!!」と実感しました。

その他の援助等の実績をあげ、 ミカの会は日も浅いのに次々と学校建設な その行動力には脱帽する 備品、

た。ています。何はともあれ変化に富んだすばらしい旅でしています。何はともあれ変化に富んだすばらしい旅でしるよう健康管理をしっかりしていくのが、私の仕事と考えけなく思いますが、これから何回か参加させていただけばかりです。それに比べ何もお手伝いできない自分を情

れが感じられる、多民族協力のふしぎな国です。 結婚式、葬式……ざわめきの中にもゆったりした時の流

最後になりましたが、安心しておまかせできるラマさんことのすばらしさを、あらためて自覚いたしました。炎天下、子どもたちには気の毒)子どもたちとの交流の場の出が少ないのは残念」など考えています。ともあれ、続ける でいからの課題として「学校にも行けない子にはどんな これからの課題として「学校にも行けない子にはどんな

がいらしゃるからこそ、このような旅ができることと思い

心からお礼申し上げます。





今年も貴重な体験続きの支援旅行でした

青沼 義信

のゲリラ行為による非常事態宣言など、ネパールの人々は 昨年の国王ご家族の不幸な事件、 今なお続くマオイスト 調を崩した方が居られましたが大事無く、

さぞピリピリした生活を送っているのでは?と思いつつ、 抹の不安を抱えての出発でしたが、カトマンドウ市内で

銃を持った兵隊さんが警戒している姿や、空港ゲートで検

問を受けるぐらいで、

観光客の姿は少ないものの、

市民の

思います。

生活ぶりに大きな変化は見られませんでした。

和そのものの様子で、 特にタンセンやルンビニは、 子供たちの 事件の片鱗も感じられない平 目の輝きは変わることが

なく、 心から安堵しました。

たシリ・マズワニ中学校生徒への アディアリ小学校の新校舎落成式への出席や、 今回の支援旅行は、 シリ・ハジ・ヤナトラハ校、 制服贈呈のほか、 昨年落成し シリ・ ルンビ

> ディヤシマ女子校での書棚贈呈と交流会などなど、各学校 支援図書合同贈呈、 光学㈱からのパソコン贈呈、トリブヴァン大学文系校での カトマンドウのパドウマ・カニヤ・ビ

二地区の支援校訪問、

トリブヴァン大学理系校へのリコー

りの行程をこなす事が出来ました。

への支援活動や交流は分刻みの行動で、

疲れからか多少体

なんとか予定通

校の生徒全員が、 そのなかで特に印象的だったのは、 今日が着初めという制服を着て、 シリ・マズワニ中学 誇らし

げにしていたことでした。

生徒達の勉強に対する姿勢に、 これは、 隣接するシリ・マズワニ小学校や近隣の小学校の 大きな刺激になったことと

るようになってきたことを嬉しく思ってい が生じ、 に教育の大切さと、 る毎に、 私のネパール訪問は今回で四回目になりますが、 現地 それに対しての彼らの行動が のこどもたちや先生方、 自分たちはどうすべきか?と言う自覚 村長はじめ住 実感として感じ取れ , ます。 訪問 の 間 す

それは、 私たちを迎える子供たちの笑顔が、 支援するも

なってきたこと。 されるもの 今回のルンビニでの2校の落成式で、こ を越えた親しみに満ちた歓迎の笑顔に

してくれた地元のチタールさんの一生懸命な姿。 たこと。ラマさんのアシスタントとして献身的な手助けを 日本山妙

の地区出身という大学生によるスムーズな式進行が行われ

法寺の修行僧 の列席など。

またタンセンでは、 トリブヴァン大学学長のご子息結婚

人としての心の通い 合いが為せる心くばりがより強く

タンセンの先生方主催の晩餐会への招待な

式への招待。

感じられましたが、これは校舎建設や図書などのハードで

の支援だけでは出来るはずが無く、 ハート (ソフト) がプ

ラスされてはじめて可能になることであり、会としての真

の支援方針がネパー ル の 人々に理解された結果によるもの

と強く感じました。

援校を訪問し、 こ のように活動 その向上の様子を見ていきたいものです の結果が現実のものになると、 毎年全支

> が、 現在実施の支援旅行の日程では無理があり、 今後の訪 ま

問方法につい て検討されなければならない 課題と思

す。

供たちだけならまだしも、 インスタントカメラを持っていきました。 うので、今年は、 トしたくなり、プレゼントするにしても来年になってしま きましたが、 いことがしばしばでした。 ンズの前に出てくるので、 私は、 今年も記録係として各行事や交流を写真に 校舎や施設を撮ろうとレンズを向けると、 撮った写真をその場でプレゼントできる その上撮ってあげればプレゼン アングルを変えなければならな 先生まで撮ってもらいたくてレ 1撮って 子

どその場の判断で写してあげることにしたのですが、 村村長のように、 先生を撮ると次から次へとの先生の全員撮影や、 子供たちまで撮っていては限が無い 私の子供も・・・」 ので、 と連れて来られた 先生や マズワニ 村 校長

ĺĆ 出来るようになったことを嬉しく思いました。 IJ で、 お 互いにそんな事を云えるような、 非常に有効な交流の 場を演出できたように思うと共 心の許せる交流が

今回の旅 には、 日本では実現不可能な貴重な体験もあり

学長の自宅で紙の皿 に盛られた祝い の食べ 物「 雛 あ

れ ? _

干菓子」

_

バナナ」

をい

ただき、

新婦

を迎

えに

出

の

ました

先ず、 大谷さん企画のマウンテンフライトです。 前日ま

その空

で3日間フライトが出来なかったとのことですが、 発の為のセレモニー · の後、 楽隊の先導で新郎の 乗っ た車

後ろを参列者が列をなして山道を登ること1

時間半、

新

婦

ダウラギリまでのヒマラヤ山脈の中核をなすネパー ルヒマ はどこへやら、 素晴らしい天候に恵まれ、エベレストから 新婦の家の前で停止、

の家までビスタリ・ビスタリの行進でした。

しばらくして新郎のもとへ新

婦の

家

近に見ることができた上、コックピットからも写真を撮る

スチワー デスの素晴らしいガイド付きで間

ラヤの山々を、

家に入ることが出来ご対面となります。 へ入ることを許すと言う書面や儀式の 品が渡され、 やっと

ことが出来、 あまりの素晴らしさに写真を撮ることに夢中で、 夢のような幸せな1時間余りでした 撮るには

へ行き祝い、 そのお祝いは4~5日続くそうです。

新郎

(側の人々は翌日まで新婦の家で祝い、

翌朝新

郎

の

家

撮っ たもののどれがどれやら名前はさだかではありませ

お祝い ラマさんの結婚もそう遠くない に駆けつけたいですね。 ことでしょう。 その 節 には

程に入れてい h 来年もマウンテンフライトと、 ただけば、 より一層楽しい旅になると思うと ナガルコットを旅の日

葬まで) に出会ったことを書くのにいささか抵抗を感ずる 式のことを書い 野 辺送り

た直ぐ後に、

葬

式

か

ら火

結婚

共に、 かと今から楽し 今度は落ち着いてじっくりと山を見られるのではな みにしてい います。

で、 それは 機会を見て報告したいと思い ま

の

L١ リブヴァン大学学長のご子息の結婚式に出席できたこ

とも貴重な体験でした。

今回 [の旅でも新鮮な体験が出来ましたが、 今までの旅 で

との出会い、 ŧ あこがれのヒマラヤの ダサイン祭での行事、 山々との出会い、 サイとの遭遇など、 朩 タル の 大群

来の支援活動以外の貴重な体験が出来、 私の人生に大きな

おります。インパクトを与えてくれている支援旅行に心から感謝して

お礼を申し上げます。りの無い支援旅行を演出されたラマさんに心からの感謝とシリ・マズワニ中学校の制服の短期間作成の手配、又、滞文末になりましたが、学校建築をはじめ全ての準備や、



学校訪問について

沼野 和子

キの情報があったり、マオイストの不穏の動きなど多少の 私にとっては三年ぶりのネパール。大学生のストライ

なかった。 0 0円 と 叫 しかし、 んで寄ってくる荷物運びの子どもたちの姿が あのネパール独特の匂いと街の薄暗い

ただ前に比べると閑散としていて「100

Á

1

あった。

不安もあったが、

カトマンズ空港は何事もなく平穏無事で

灯りとデコボコの道路は相変わらずであった。

私たちの学校訪問は、 ルンビニ地区では落成式二校、 既

支援校と来年の支援予定校など数校。

タンセンではトリウ

ァン大学理系校およびいくつかの学校への合同贈呈式出席 とモホン女子校他の訪問。 カトマンズに戻ってパドゥマ・

カニヤ女子校との交流会など多数が予定されていた。

とは出来ないので、 私たち10人のグループがそのすべてに全員参加するこ 二手に分かれたりして各所の訪問を何

とか予定どうりこなすことができた。

リ・マズワニ小学校を再訪することができた。 ルンビニ地区では私たちが1998年に最初に建てたシ 校舎は時

経て白い壁は灰色なっていたが、 が皆明るい顔をして勉強していた。 教室ではたくさん 小学校の先には 正面 の生徒

を

赤煉瓦で化粧した中学校がある。

うち女子二十名の子どもたちが静かに我々を待ってい 教室では揃いのブルーのシャツを着た中学生四十六名: た。

制服の青いシャツは今日が着初めだったとのこと。 制服が

窮屈だったのか私たちに長く待たされた不満もあっ た

ゕੑ 小学生と違って嬉しさだけでなく複雑な表情をしてい

たのが印象に残った。

ſΪ いとは別に、 日本でもきっとそうであるのだろうけれど学校段 鉛筆や・ ノ | 学校によって子どもたちの様子は同じではな トを配る場合に静かに受け取ってもらえる 階 の 違

くなってしまう学校がある。 学校と大騒ぎになってあちこちから手が伸び収拾がつかな の貧富の 人 種

宗教その他いろいろな違いがあるのだろうが、 地区住民 私たちの 差、

の前で棒を持って子どもたちを制していた先生がいたこと

とも原因ではないかと感じられた。などを考えると、学校によって先生方の質に違いがあるこ

には負えない。教育内容の充実、教師の質の向上等々となると私たちの手向上したというルンビニ地区からの嬉しい報告もあるが、学校が建ったことによってその辺の教育に対する意識が

いる。さやかにでも息長く私たちの活動を続けていきたい願ってきやかにでも息長く私たちの活動を続けていきたい願って、さ事なことか、何が望まれているのかをよく聞き取って、さしかし、これからも息長く子どもたちとって何が一番大

の朝のことも書いておきたい。学校訪問とは直接関係がないが、印象深かったマヤ聖堂



ネパール教育支援の旅に参加して

山下

繁憲

々の住む山、 ヒマラヤ八千米以上の山が連なるとて

つもない Щ

真っ白く天にも届くように聳え立つ。そして、その古里の

Щ 「の斜面に果てしなく続く段々畑の緑。 山の中腹まで転々

と家が建ってい る

バイラワからタンセンに向かう峠道はデコボコ道

マイクロバスに揺られ、 埃を撒き散らしして (バスの中も

埃だらけ)約四時間山の上に見えてきた町、 素晴らしい

度は来て見たかった町タンセン、、

タンセンの一番タカイ所にあるホテルに泊まった。 その

傍にあるトリヴァン大学のキャンパスからダウラギリ、マ

ナスル、アンナプルナ、マチャピチャレ、、、、 西ヒマラ つ<u>、</u>

ヤの山々が一望に見えた。 近くの山には真っ赤な石楠花の

花がイッパイ咲いている。

キャンパスに思う。

そんな環境のなかで教育を受けられる場所は世界一

贅沢な

以前よりタンセンの町に来たかった。 有名な塩屋の娘さん

にも逢えて嬉しかった。

牛も犬も人間も巧く

町の中はクラクションと埃が凄いが、

共存している。 何処へ行っても皆人懐こく 「ナマス

テ!」が返って来る。

学長さんの息子さんの結婚式に飛び入り参加した。 音楽

隊を先頭に山道を約二キロメー トル歩く。

道中休みながら二時間も掛けて、、、 時間など気にしな

11

「ビスタリー ビスタリー」 楽しい町 タンセン

ルンビニ、バイラワの小中学校の新しい教室などを見学、

ゼントを済ませる為、忙しくまわったルンビニ、バイラ 新しい学校の開校式、 ノート、エンピツなど学校へのプレ

タンセンの三つの町を繋ぐ道はまるで相模原、 町田

八王子を繋ぐ 町田街道 のようだった。

夕方、 法華ホテルに着く、 大浴場で旅の前半の埃を全身か

やっと日本人に戻れた気がした。

ら洗い流す。

カトマンドゥ(ネパール王国)

首都カトマンドゥでは、 電車もデパートも、コンビニも美 はいけない、、、、」

容院も見あたらない。

もっとも、 そんな物はこの町には似合わないが、丈夫に

出来ているバス、 あれば良い、 なんと言っても世界一のヒマラヤがある、で トラック、テンプー、そして人間の足が

も海は無い、 神様は不公平である、 山の幸があっても海の

幸は無いのだ。

マオイストのテロ行為で何人もの犠牲者が出ている、 町

の中に赤子を抱いて物乞いをしていたストリートチルドレ

ヾ この子供達の目 (ミカ) も、支援している学校の子供達の その数は以前来たときより多くなった気がする。

目も純粋であ

なんとかしてあげたいが、どうする事も出来ない。

目を合わせるのが辛く、 前を向いて歩くしかなかった。

カトマンドゥ のコーヒー ショッ プで日本からボランティ

アで来ていた女医さんとお会いしました。

色々とお話した中で、 「 日本人のツー リストは高級なホテ

ルに泊まり、 高級な酒と料理を食べて、にぎやかにしてい

るが、 ネパールに来たのだから、この国のようにしなくて

と話していた。この言葉がきつく耳

に残り、 離れなかった。

自分も食事の時には、 ムダにとらない様、 残さない様にし

ようと思った

ミカの会の女性役員の方々へ

バザーなどでの資金集め、 色々大変な事があり ますが、

晴らしい女性軍パワーでがんばってください。 私も出きる

限りのご協力をさせていただきます。

会長さん、 大谷さんはじめ、 皆様のお陰で心に残る旅が出

来てとても幸せです。

と思い ラマさんの西ネパール地方でのボランティア活動も大変だ ますが妹のジャンモさん共々、 ネパー ルの為がん

メロ ナム 山下 繁憲 ホベリ ベトランラ (又お会いしましょう)



初めてのネパール

坂牧美智子

絆、 となったー 感謝申し上げます。 した。これも偏に団長さん、ご一緒の皆様のお陰と、 三月三日から九日、 又新たに私の心に宿った、 週 間、 目で見た美しい 全てのことを忘れて、 とても有意義な旅でありま 感動、 心で知った温かい ネパー ル 深く の人

れた皆様の安らぎの笑顔が、今も心に残ります。での一齣、一日のスケジュールを消化され、ほっと安堵さました。その中でふと世界最高峰エベレストは英語の教科ました。その中でふと世界最高峰エベレストは英語の教科目の前に見たヒマラヤのパノラマ、只々見入ってしまい

も、会の内容も概ね理解することが出来ました。そして皆度、同行させていただきましたことにより、ミカの語源ミカの会と云う言葉はよく耳にしておりましたが、この

おります。

何卒宜敷くお願い致します。

とさせて頂きます。

僅かでもお力添え出来たらと、

思って

L١

程、

大変良い旅でした。

この旅行を機にミカの会

の

の熱心なボランティア精神に感服しました。

樣

てとても神秘的でした。 まる時の間でした。 様のお経を耳にして、 史の古さに重みを感じ、 たが、 最古の寺院でローソク灯し供養したことも、 大変良い勉強になりました。 に祝福する気持ちはドコモ同じだと思いました。 の足跡を、 とを知りましたが、 への参加、 表と自分の少しづつ書いたメモを見ながら、 ネパールといえば、 期 間中滞在した所、 実際にその場に立ちました時、 儀式も国により随分方法が違うものだというこ 懐かしく辿っております。 そして大きな菩提樹も、 新しい人生の門出を大切にし、 皆様と一緒に供養したことも、 仏教の国とイメージしてはおりまし 各々に印象深く、 仏陀の目が輝いていた、 又いろいろと説明していただき、 お釈迦様の生誕地では、 建物の立派さと、 思いがけ 日程スケジュ 思い 神々しく聳え 歩んだー ない は ネパー 結婚 尽きな 心静 方丈 週 I 杯 歴 ル 式 間 ル



ネパール・ミカの会



ネパール夢の記 第6号

ネパール・ミカの会教育支援の旅

発 行 日:2002年4月20日発行

発 行 所:東京都町田市忠生2-5-36 こもれび堂内

電 話:042-797-3975

タイトル・カット:秦 明広

写 真・絵:青沼 義信・大谷 安宏

公式ホームページ

http://www.ssr.co.jp/mika mail mika@ssr.co.jp